

Physical Mental Spiritual
Simple Economical Universal
Total Lifestyle Change

自然を基調にした健康づくりの情報誌

トータルヘルス

No. 83



巻頭言

チャコール：弱き人類のための強き助け

一八一三年、フランスの化学者ミシュリーヌ・ベルトラン氏は、チャコールの毒素吸着力を示すため、自ら大きじ一杯のヒ素を飲みこんだ。これは一五〇人を殺せる量だったが、直後、同量のチャコールを飲んで死ぬことなく、人々を大いに驚かせた。一八三一年には、トウリー教授が猛毒物質ストリキニーネを致死量の10倍飲み、やはり直後にチャコールを飲んで無事を示し、アカデミー・フランセーズ医科大学の同僚にチャコールの威力を証明した。それ以来ずっと、特にヨーロッパの病院では中毒や薬剤過剰投与の救急医療の第一線でチャコールが使われているという。チャコールの速効性と信頼性が証明されたのだ。

身近な所では、本誌のチャコール体験でもご紹介した85歳の男性は、不治である肺気腫の回復を半年で成し遂げ、寝たきりから畑仕事に精を出せるまでに回復した。ある女性は腿まで壊死した足が健康な足に戻った。交通事故で植物人間になった男性の頭にチャコール湿布を貼り続け、意識も運動能力も戻り自転車でジムに通っている。喘息や頻尿が改善された婦人方もいる。

これまでは、痛みの軽減やガン腫瘍の縮小など、チャコールの毒素吸着作用が働くゆえに改善するという一定のメカニズムによる回復を多く見聞きしてきた。だが、最近では一体どうして、毒素とは関連がないと思われる喘息や頻尿、植物人間の脳でさえチャコールで回復するのか・・・利用された方々の実体験を伺ってとても不思議に感じていた。

しかしある時、あるハーブの専門家が「どんな病気もまず、体内の老廃物を出して浄化すると大方の患者はハーブ療法開始前に回復に向かう」と述べたのを思い出した。そしてさらに、「組織が浄化されれば、その組織は本来働くべき様に働き出す」と語った米国の健康教育家、エレン・G・ホワイトの言葉が思い出された。チャコールが思いもよらない病状にまで効くのは患部周辺の組織が浄化され、本来働くべき様に働き出したので治っていくことだ。なるほど、これで不思議に思っていたことが納得できた。そうであれば、どんな病気であっても組織を浄化するチャコールが役立つということだ。今後、身近な人が困った病状に見舞われた時には、理屈抜きにチャコールの飲用、または湿布を試してみようと思う。チャコールは正に、病を負いやすい弱い人類のために備えられた強き助け手である。

参照：「チャコール」(アガサ・カルピンスラッシュ著 財) 日本厚生協会発行

Contents 目次

- 巻頭言：活性炭—体内浄化が回復の鍵 1
- 愛と遺伝子 第5回 2~4
- 家庭でできる自然療法 喘息の予防と治療法② 5~8
- 特集：チャコールの広範囲な利用法② 9~11
- 野菜は力11：ニンジン—パワー 12~13
- クッキング：人参のムース、ベジタブルポタージュ 14
- バックナンバー 15
- NKKだより：2014年料理教室の御案内 16